

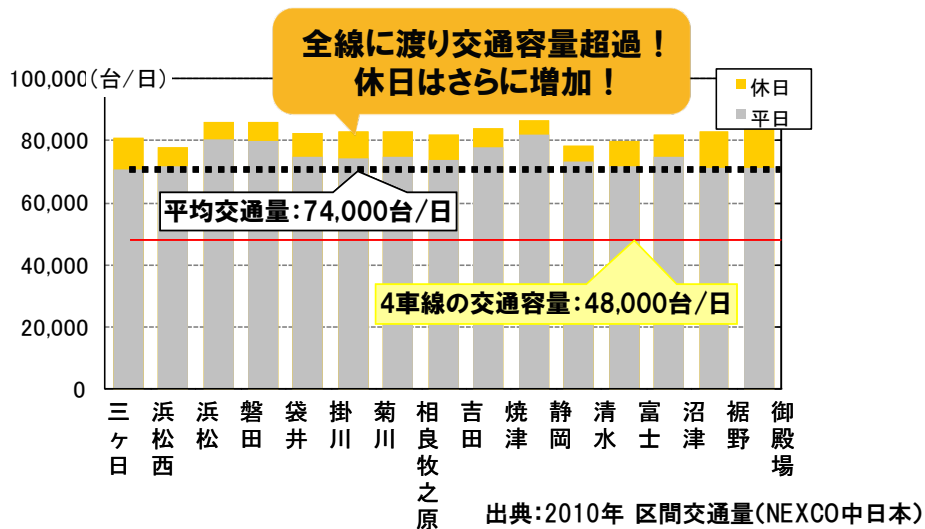
3. 開通区間の特徴

◆東名高速道路の混雑が解消されます

東名高速道路 御殿場IC～三ヶ日IC間(4車線)における、一日あたりの交通容量は約48,000台ですが、現状では一日の平均交通量が約74,000台となっており、交通集中による渋滞が多く発生しています。

新東名高速道路の開通により、東名・新東名に交通が分散し、定時性・快適性が確保され、渋滞が解消されます。

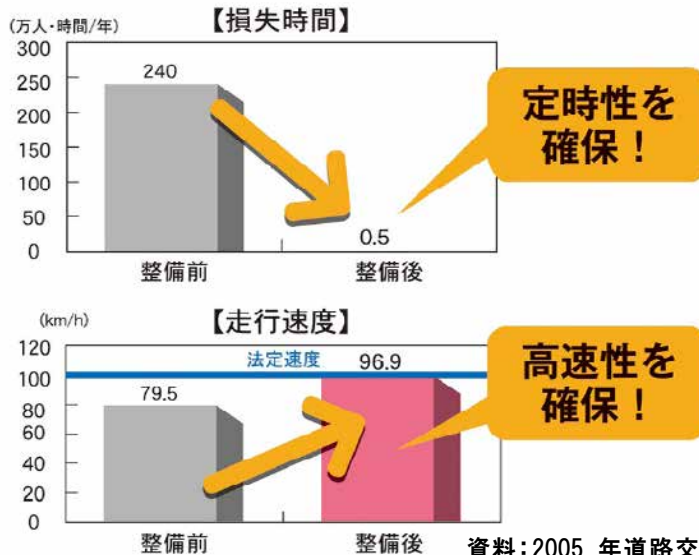
【インターチェンジ間交通量】



【交通渋滞の状況】



【整備後の状況】



資料：2005年道路交通センサス及び交通量推計データより(NEXCO中日本資料)より算出。
 走行速度は普通車の速度で算出(整備前:2005年道路交通センサス時のプローブ調査結果、整備後:NEXCO中日本資料)

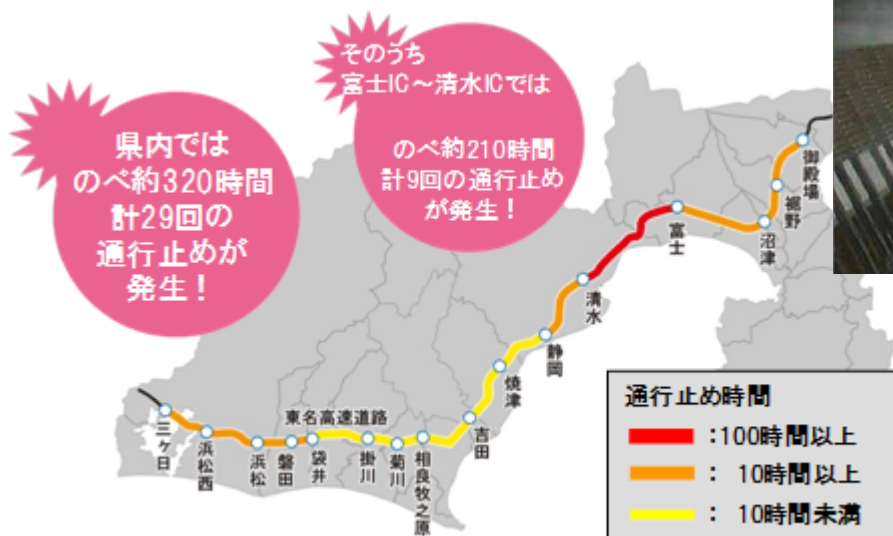
◆ダブルネットワークにより、安全・安心な社会に貢献します

東名高速道路には、地震や異常気象による通行止め多発箇所が存在しています。さらに、今後予測される東海地震では、現東名付近での震度は6+~7と予測されており、その被害が甚大になることが予想されています。

今回、新東名高速道路とダブルネットワーク化されることで、仮に東名高速道路が通行止めの際、通過交通が国道1号線や生活道路へ流入することで発生する交通麻痺を回避することが可能となります。

また、一方に交通規制がかかった際でも、連絡路や一般道等を介して、もう一方の高速道路へ移って走行することができます。

【通行止めの状況】

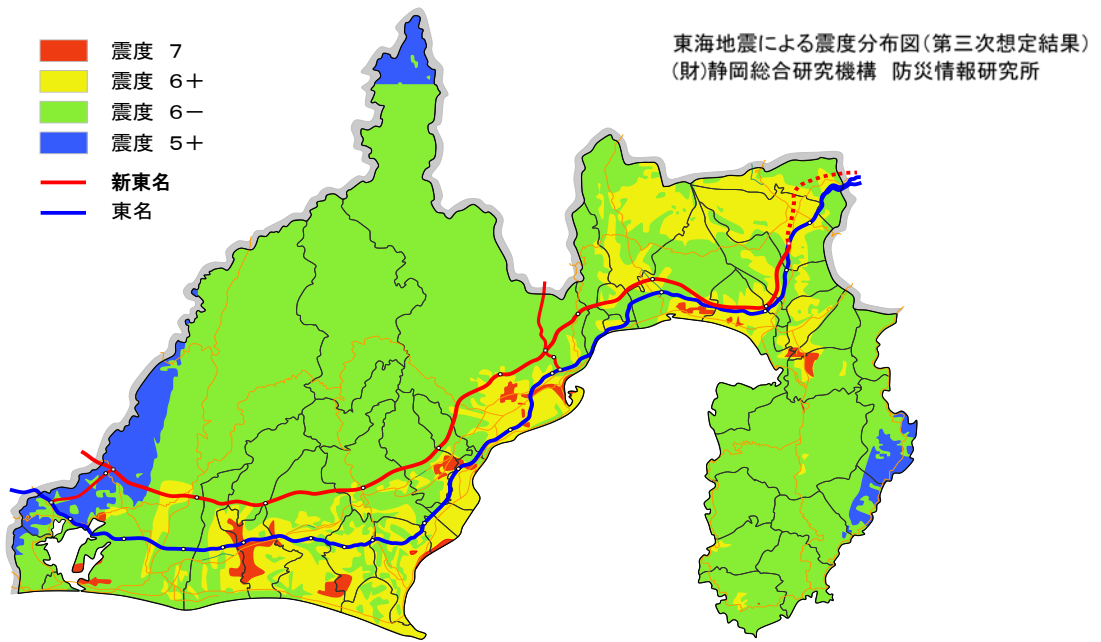


出典：2011年1月~11月 静岡県内通行止めデータ速報(NEXCO中日本)



由比地区の越波状況

【東海地震の想定震度区分図】



新東名は東名よりも山側を通過していることから、東海地震の被害を受けにくい。

【(参考)東日本大震災の復興支援に新東名を活用】

2011年3月11日に発生した東日本大震災により大津波警報が発令され、東名高速及び並行する国道1号が、約23時間にわたり通行止めになりました。

このため、工事中新東名の藤枝岡部IC⇒新富士IC(上り方向)を緊急輸送路として活用することで、消防等の緊急車両470台が被災地に向かいました。



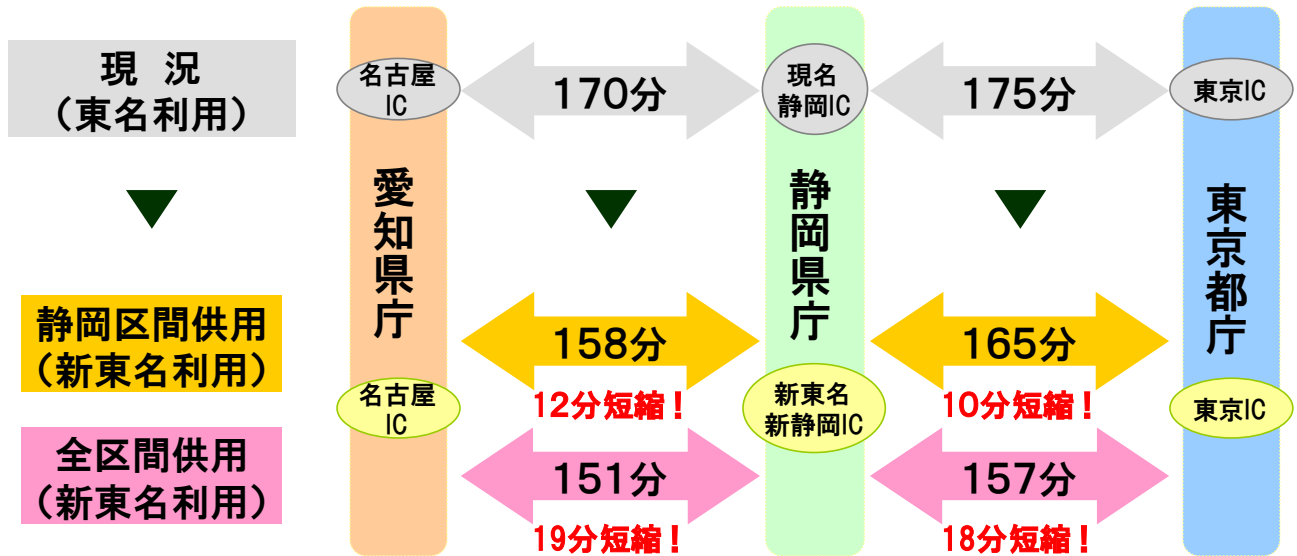
緊急車両の通行状況



緊急車両の通行状況

◆都市間の連携が強化されます

新東名高速道路の整備により所要時間が短縮し、都市間の連携が強化され、交流機会の増加や地域の活性化が期待されます。

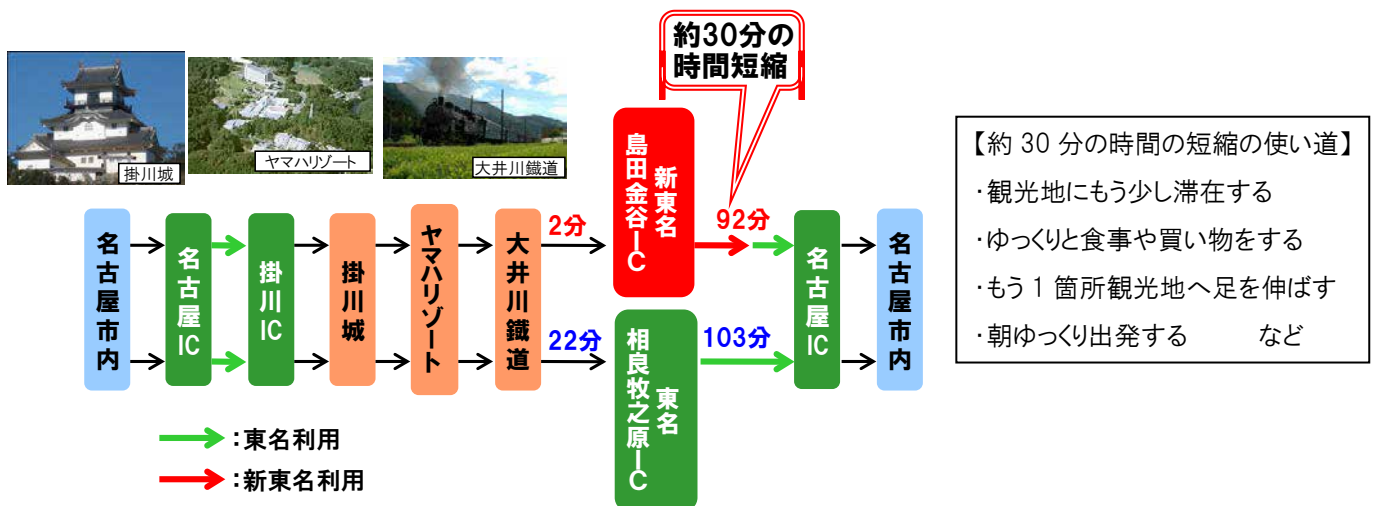


資料:2005年道路交通センサスより算出(新東名は時速100km/hで算出)

◆より魅力的な観光ツアーが可能になります



資料:2005年 道路交通センサスより算出 (新東名は時速100km/hで算出)



◆安全で快適な走りやすい高速道路です

新東名高速道路は、東名高速道路と比べてカーブも坂道もゆるやかなことが構造上の大きな特徴です。直線に近い道路のため、より安全で快適な走行が可能です。

(本線)



◆環境にやさしい道づくりに取り組みました

新東名高速道路の建設では山間部を新たに切り開くため、大量の根株が発生します。これらを貴重な資源として、建設中の新東名で堆肥化を行い、のり面の吹き付けに活用するなど、積極的に資源の有効利用を推進しました。

【緑のリサイクル概念図】

